

武蔵野市立図書館蔵書方針

令和3（2021）年3月

武蔵野市立図書館

目次

1.	背景	1
2.	位置づけ	1
3.	蔵書評価	3
	(1) 武蔵野市立図書館	3
	(2) 中央図書館、吉祥寺図書館、プレイス図書館の比較	10
4.	蔵書方針	13
	(1) 武蔵野市立図書館	13
	(2) 中央図書館	14
	(3) 吉祥寺図書館	15
	(4) プレイス図書館	16

1. 背景

武蔵野市立図書館は、「各館の地域性を考慮しながら、市民の要望に十分応えられるように、各分野にわたり、必要な資料を広範囲に収集する」と示す「武蔵野市立図書館資料収集方針」により、蔵書の充実を図ってきました。しかし、構成されてきた現在の蔵書が、各分野における基礎資料を備えたものとなっているか、多様性と持続性のあるものとなっているか、各館の個性に沿った内容となっているかなどについての点検がひとつの課題としてあります。また、中央図書館書庫の集密化などにより蔵書可能冊数の拡大に努めてきましたが、既に市立図書館全体の収蔵能力の9割が使用されており、今後は蔵書数拡大が難しい状況です。限りある予算、限りあるスペースの中で、武蔵野市立図書館として、どのような資料を収集し除籍していくかをあらためて検討しなくてはならないという課題もあります。

このような現状を踏まえ、平成 31(2019)～平成 40(2028)年度を計画期間とする第2期武蔵野市図書館基本計画の重点取組のひとつに、蔵書方針の見直しが設定されました。これを受けて、亜細亜大学安形輝教授に調査へご協力いただき、本市図書館と他公立図書館等との比較あるいは市内3館ごとの立地、役割、利用者層や図書受入実績等の比較により蔵書評価を行い、その結果に基づく蔵書構成の見直しに取り組むこととしました。

2. 位置づけ

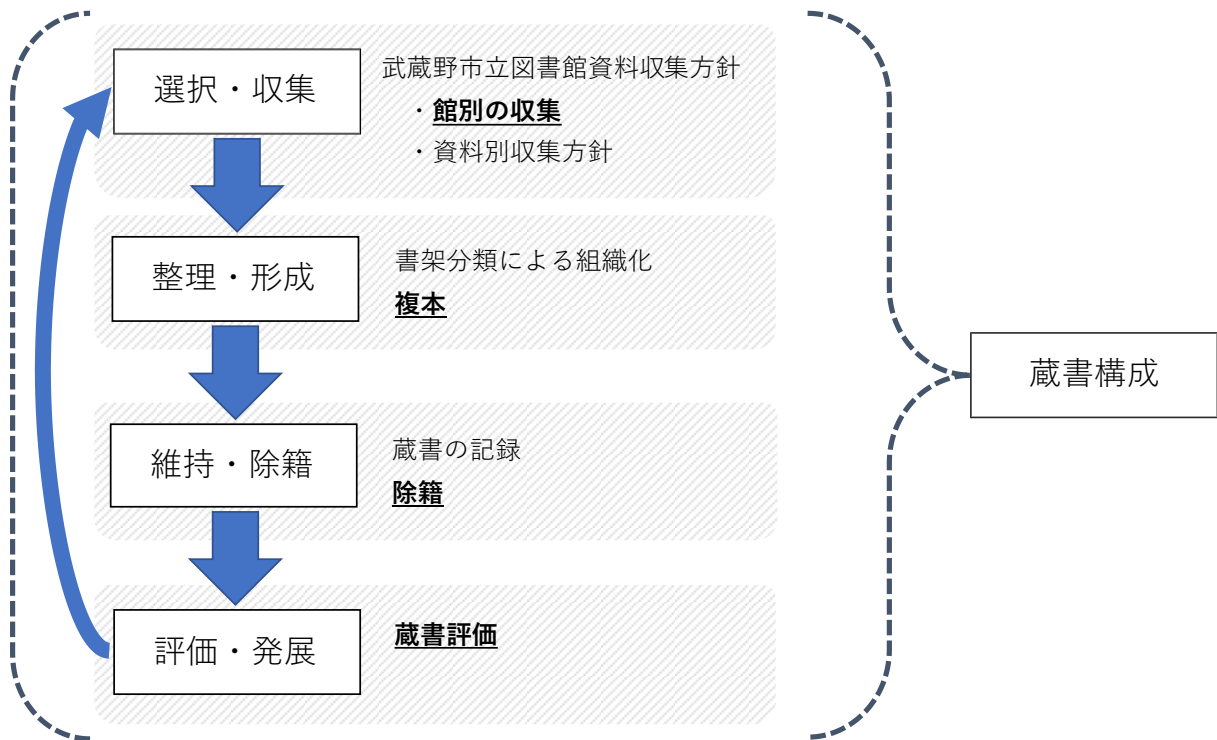
蔵書構成は、「蔵書が図書館のサービス目的を実現する構造となるように、資料を選択、収集して、計画的組織的に蔵書を形成、維持、発展させていく意図的なプロセス」¹とされています。そのプロセスは一般的に、「選択・収集⇒整理・形成⇒維持・除籍⇒評価・発展」の形をとります（図表 2-1）²。

本方針は、蔵書の現状を評価し、その結果を踏まえ、特に「館別の収集」「複本」「除籍」の方向性を定めることで、本市図書館における蔵書構成の今後のあり方を示し、各分野における基礎資料や武蔵野市の地域資料、多様性と持続性のある図書資料の収集・保存を適切に行っていくことを目的としています。

¹ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編、「図書館情報学用語辞典第5版」丸善出版，2020年

² 参考文献 二村健監修・藤田岳久編著、「図書館情報資源概論」学文社，2016年

図表 2-1 蔵書構成



3. 蔵書評価

(1) 武蔵野市立図書館

市立図書館（3館全体）の蔵書の現状を、他公立図書館等と比較しながら評価します。

① 都内公立図書館との比較

蔵書に関する主な指標を用いて、都内公立図書館との比較評価（図表3-1）を行いました³。本市は、他公立図書館と比較しても市民一人当たりの蔵書冊数が多く、蔵書量は充実していると言えます。また、市民一人当たりの貸出冊数からも、非常に多くの利用がされており、利用者の要求に応える質の高い蔵書であると言えます。なお、蔵書評価で良く用いられる蔵書回転率⁴については、蔵書冊数が充実しているために、高い数値が出ないという傾向にあります。

この比較からは、総合的な評価として、本市図書館の蔵書は質量ともに高いレベルにあると評価できると考えます。

図表 3-1 都内公立図書館との比較評価

自治体名等	人口	蔵書冊数 (図書)	市民一人あたり の蔵書冊数	貸出冊数	市民一人あたり の貸出冊数	蔵書回転率
武蔵野市	147,519	932,167	6.32	2,313,162	15.68	2.48
三鷹市	189,478	790,776	4.17	1,619,528	8.55	2.05
小金井市	122,542	491,046	4.01	839,542	6.85	1.71
西東京市	205,653	784,963	3.82	1,898,546	9.23	2.42
杉並区	576,093	2,000,028	3.47	4,064,064	7.05	2.03
練馬区	741,588	1,839,295	2.48	6,273,903	8.46	3.41
都内市部計	4,185,120	19,220,209	4.59	30,350,692	7.25	1.58
都内特別区計	9,599,585	27,764,556	2.89	69,966,389	7.29	2.52

³ 東京都立中央図書館「令和2年度 東京都公立図書館調査」より作成。なお同調査は、令和2年4月1日を基準とし、令和元年度の実績をもとに作成されています。

⁴ 蔵書回転率は、ある一定期間（1年）の貸出冊数を蔵書冊数で割ったものであり、その期間内に蔵書一冊が平均何回貸し出されたかを示す図書館評価の指標です。

② 国立国会図書館に対するカバー率

国立国会図書館と武蔵野市の蔵書データを用いて、国立国会図書館蔵書出版物全体と仮定して⁵、それに対するカバー率と構成比を算出しました。武蔵野市は蔵書データを、国立国会図書館のデータは国立国会図書館サーチAPIで公開されているものを利用しました。タイトルでの突合は異なる版などを同一視してしまう恐れがあるため、ISBNが付与されているタイトルのみを対象としています。

図表 3-2 のとおり、全体的には ISBN がある国立国会図書館の資料（約 265 万点）のうち、22.1%をカバーしています。

国立国会図書館で ISBN がある資料には漫画、学習参考書、写真集等、自治体の公立図書館があまり購入しない資料も含まれるため、自治体の公立図書館としては非常に高いカバー率となっており、市民にとっては、それだけ多くの資料に触れる機会がもてるような、幅広い資料が受け入れられていると考えられます。

参考までに、全国の公立図書館 4,477 館を対象に 2006 年上半期に出版されたタイトルのうち無作為抽出した 5,048 タイトルの所蔵調査⁶を行った際のデータを用いて、全国の公立図書館のカバー率を算出した結果は図表 3-3 のとおりです。

出版物のカバー率が 20%を超える図書館は上位 1%となっています。つまり、武蔵野市立図書館のカバー率は非常に高いグループに入ると言えます。

また、このデータを用いて、全国の市区町村 1,087 自治体について館単位ではなく自治体単位で集計を行った結果、この当時の武蔵野市の 25.6%というカバー率は全国で 62 位であり、自治体単位でもカバー率が高いことが示されています。

図表 3-2 国立国会図書館蔵書に対するカバー率

分類	国立国会図書館	武蔵野市立図書館	カバー率
0類	44,971	11,247	25.0%
1類	99,171	20,117	20.3%
2類	162,579	43,138	26.5%
3類	324,865	76,420	23.5%
4類	160,428	37,562	23.4%
5類	156,880	44,858	28.6%
6類	72,385	19,357	26.7%
7類	444,848	62,880	14.1%
8類	31,947	7,596	23.8%
9類	369,686	115,039	31.1%
NDCなし	778,313	146,879	18.9%
合計	2,646,073	585,093	22.1%

図表 3-3 2006 年上半期出版物に対する公立図書館のカバー率（推計）

カバー率	館数	割合
0.0～5.0%	3,467	77.4%
5.0～10%	710	15.9%
10～20%	255	5.7%
21%～	45	1.0%
	4,477	100.0%

⁵ 国立国会図書館は国立国会図書館法により、国内で発行されたすべての出版物を納める図書館です。

⁶ 大場博幸ほか 3 名. 図書館はどのような本を所蔵しているか : 2006 年上半期総刊行書籍を対象とした包括的所蔵調査. 日本図書館情報学会誌 Vol.58, No.3, pp.139-154, 2012-09-30

③ 近隣自治体との分類別構成比の比較

図表 3-4 では、武蔵野市の図書館と近隣自治体図書館蔵書の、分類別の構成比を比較しています⁷。武蔵野市立図書館で所蔵する一般図書の内、9 類（文学）の占める比率は 29.1%と、分類中で一番高い割合となっています。

図表 3-4 近隣自治体との分類別構成比の比較

分類	武蔵野市	三鷹市	小金井市	西東京市	杉並区
郷土行政	4.4%	3.5%	—	16.0%	—
0類 総記	3.0%	2.4%	3.8%	2.0%	2.0%
1類 哲学	4.5%	3.1%	3.8%	3.2%	3.7%
2類 歴史	10.0%	7.5%	10.1%	8.2%	7.0%
3類 社会科学	17.4%	11.7%	16.0%	12.2%	10.2%
4類 自然科学	7.2%	5.3%	6.7%	5.4%	6.0%
5類 技術	8.1%	6.8%	8.1%	6.7%	6.8%
6類 産業	3.5%	2.7%	2.6%	2.3%	2.7%
7類 芸術	10.8%	6.9%	8.3%	6.7%	8.9%
8類 言語	2.0%	1.7%	1.8%	1.3%	1.6%
9類 文学	29.1%	25.7%	38.9%	29.3%	24.7%
文庫・新書	—	15.3%	—	—	17.0%
その他	—	7.3%	—	6.7%	9.3%

図表 3-5 分類別貸出比率

分類	貸出冊数に占める割合
郷土行政	0.2%
0 類	1.8%
1 類	3.4%
2 類	8.2%
3 類	8.1%
4 類	6.3%
5 類	8.1%
6 類	2.0%
7 類	10.4%
8 類	1.5%
9 類	33.3%
絵本・紙芝居	16.8%

近隣自治体の 9 類（文学）の構成比率は、三鷹市 25.7%、小金井市 38.9%、西東京市 29.3%、杉並区 24.7%となっています。この内、三鷹市・杉並区では、文庫・新書を分けて冊数を計測しており（三鷹市：15.3%、杉並区：17.0%）、文庫・新書の中にも 9 類が含まれると考えると、武蔵野市の蔵書構成が、特別に 9 類（文学）に偏っているものでは無いことがわかります。

また、図表 3-5 は、本市図書館における分類別の貸出比率を示したものです⁸。9 類（文学）の貸出冊数は、全体の 33.3%を占め、利用者の要望が高い分野であることがわかります。このことから、利用者の要望に沿った、バランスの良い構成であると考察されます。

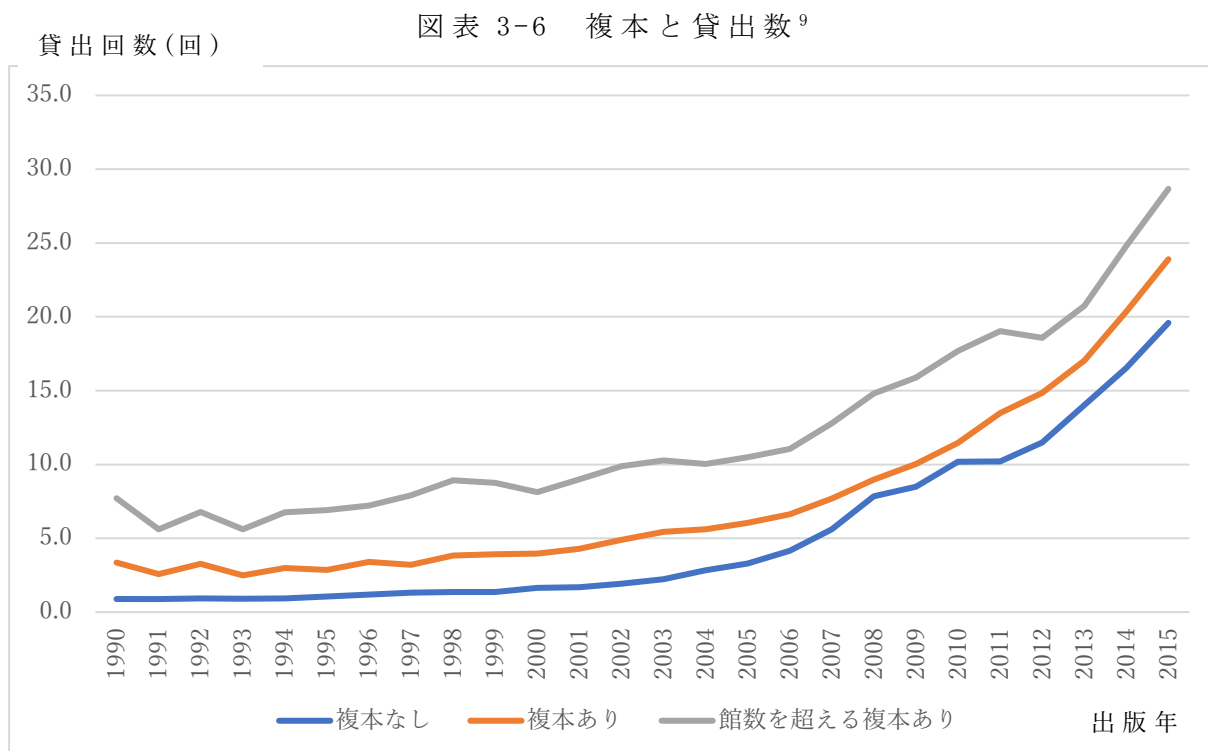
⁷ 武蔵野市：「武蔵野市の図書館 令和元（平成 31）年度 事業報告」、三鷹市：「令和元年度三鷹市立図書館事業概要」、西東京市：「令和元年度 西東京市図書館事業概要」、杉並区：「図書館利用状況（平成 31 年 3 月末現在）」、小金井市：「令和元年度 小金井市事務報告書」

⁸ 「武蔵野市の図書館 令和元（平成 31）年度 事業報告」、武蔵野市、83 頁

④ 複本

(ア) 複本と貸出数

本市における複本と貸出数の関係を見るために、本市の貸出統計（2016～2019）から「4冊以上（館数を超える）複本がある資料」「3冊以下（館数内）複本がある資料」「複本がない資料」を出版年別にして、1冊あたりの貸出数を集計したのが図表3-6です。なお、ここでは除籍された資料は考慮していません。



複本がある資料は、出版年に関わらず、複本がない資料よりも、1冊あたりの貸出数が多くなっています。例えば、2015年に出版された資料について、2016年～2019年の4年間の1冊あたり平均貸出回数は、「複本なし」の資料は約20回、「複本あり」の資料は約24回、「館数を超える複本あり」の資料は約29回でした。利用者のニーズ（貸出回数）に応じて複本を揃える、複本が増えることで利用者のニーズ（貸出回数）も高まる、という関係性が見られます。

なお、1冊あたりの貸出数で見ると、全体として出版年が古いものほど貸出数が減少していることがわかります。一般的に出版物の利用は、出版年が古くなるほど減少することと一致しています。

⁹ この貸出統計の集計期間は2016年～2019年であり、それ以前の貸出数は含まれていません。

(イ) 類別の複本数

日本十進分類法で分類されている蔵書について、類別に複本数を集計したものを図表 3-7 に示しました。(令和 3 年 3 月現在)

図表 3-7 類別複本数 (タイトル数及び冊数)

類	NDC分類が付与されている資料			4冊以上の複本		
	タイトル数	冊数	平均複本数	タイトル数	冊数	平均複本数
0	22,291	27,376	1.2	82	416	5.1
1	30,255	35,193	1.2	124	615	5.0
2	64,303	83,137	1.3	385	1,825	4.7
3	118,820	139,879	1.2	395	2,002	5.1
4	53,626	69,433	1.3	407	2,163	5.3
5	52,215	66,064	1.3	235	1,059	4.5
6	25,047	30,372	1.2	90	476	5.3
7	78,226	98,494	1.3	466	2,124	4.6
8	14,163	17,798	1.3	52	227	4.4
9	198,358	287,283	1.4	4,796	25,394	5.3

(ウ) 最大複本数

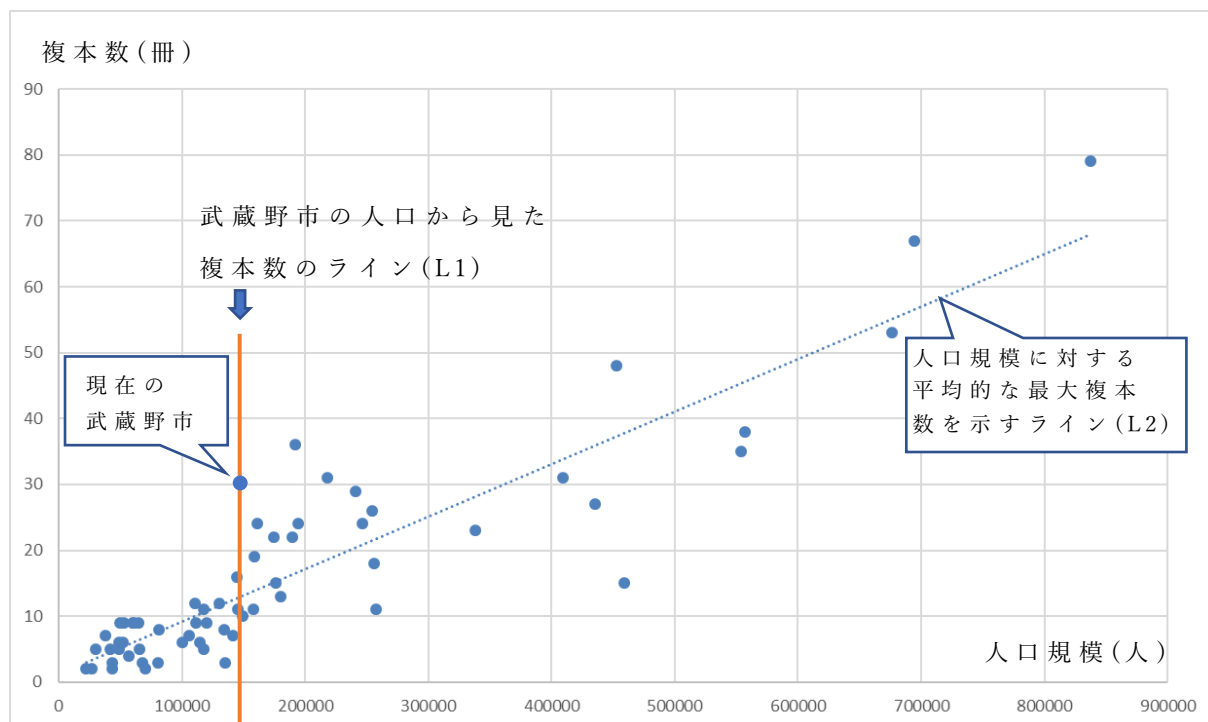
他の自治体との比較において、本市の人口規模における一般的な最大複本数を調べるために、既往調査「公立図書館における予約数と複本数の推移：予約上位本の定点調査¹⁰」のデータを参照しました。この調査は関東を中心とした 61 自治体の予約上位ランキングを 2014 年 4～7 月まで定点調査したもので、図書館システムから予約数と複本数を調査して、その時点での自治体の最大複本数を推計したものです。

図表 3-8 は、調査で推計された最大複本数を縦軸に、調査実施時期の「日本の図書館 2013」より各自治体の奉仕対象人口（その自治体の人口）を横軸に、散布図としてプロットしたものです。

この図表に本市の人口 147,519 人（R2 年 4 月 1 日時点）を代入する（ライン(L1)部分）と、最大複本数は 12～3 冊程度になります。現状、本市にはベストセラー本など最大複本冊数が 30 冊を超えるタイトルもあり、他自治体の水準と比較すると、最大複本冊数は過剰な状況にあると言えます。

¹⁰ 安形輝、「公立図書館における予約数と複本数の推移：予約上位本の定点調査」、http://www.mslis.jp/am2014yoko/07_agatateru_rev.pdf

図表 3-8 自治体人口規模と最大複本数



⑤ 除籍

中央図書館地下1階にある書庫の書架増設を2015（H27）年度に完了し、市立図書館3館合計の蔵書は最大100万冊まで対応できる状態¹¹です。

この100万冊に対して、現状すでに蔵書冊数は932,167冊と9割超に達しており、直近5年間の推移を見ても平均で年2万冊増加（図表3-9）しています。

仮にこのままのペースで蔵書が増加すると、あと3～4年のうちに書架の空きがなくなり、新たな資料の受入が不可能になってしまいます。これまでも、一般図書では各分類の所蔵数を参考に使用する棚数を割り振り直し整理する、児童図書では複本の保存スペースも考え余裕をもって書架を割り振るなどの対応を行ってきました。しかし、今後も蔵書の鮮度を適切な状態に維持していくためには、さらに計画的に除籍を行っていく必要があります。

図表3-9 年間受入冊数と除籍冊数の推移（H27～R1年度）¹²

年度	H27	H28	H29	H30	R1(H31)	年間平均
年間受入冊数（図書）	38,498	43,629	42,772	43,681	43,247	42,365
年間除籍冊数（図書）	15,561	5,881	5,800	50,564	32,670	22,095
受入－除籍	22,937	37,748	36,972	-6,883	10,577	20,270

本市図書館は、除籍基準を定めこれに基づき除籍を行ってきました。しかしこの基準は、例えば「情報が古くなり利用価値を失ったもの」、「利用者が紛失または破損、汚損した資料で弁償が完了したもの」を除籍の対象とするといった大枠の基準です。計画的かつ適切な除籍を行い、より良い蔵書の質と量を維持していくためには、各館の状況も踏まえながら、より具体的な基準を用意することが必要です。

¹¹ 施設の床面積や構造など物理的制約もあり、分館を含め今後市立図書館の書架増設の予定はなく、100万冊が市立図書館蔵書冊数の上限となります。

¹² 「武蔵野市の図書館 令和元（平成31）年度事業報告」、武蔵野市、77頁

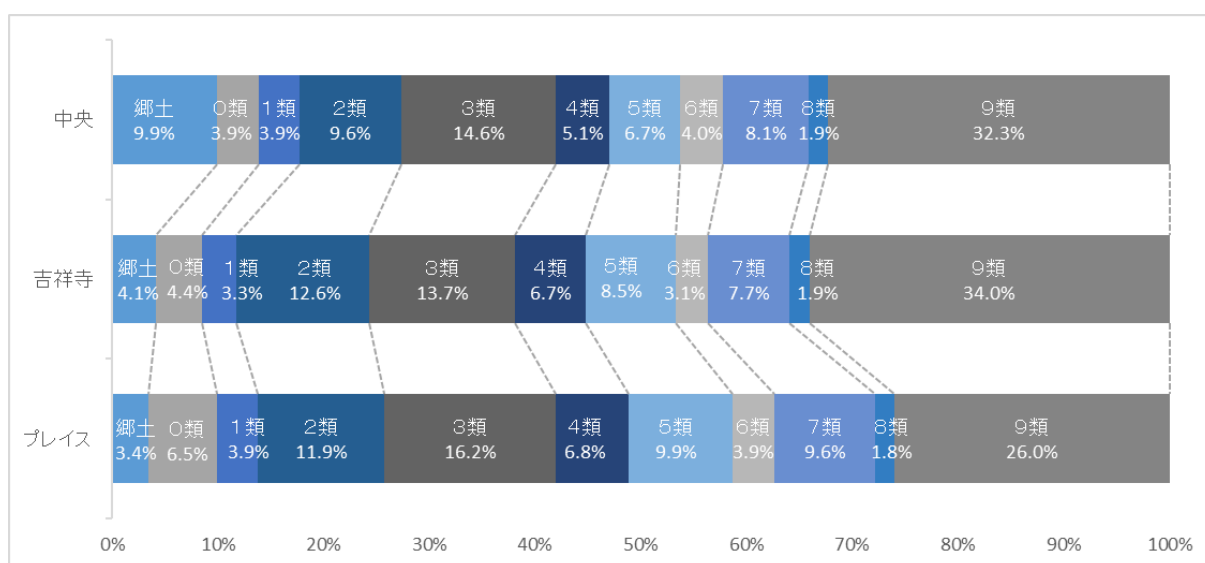
(2) 中央図書館、吉祥寺図書館、プレイス図書館の比較

吉祥寺図書館リニューアル以降の、平成30年度と令和元年度の2年間における受入図書の傾向と、単館所蔵タイトルの傾向を比較し、3館ごとの特徴を考察しました。

ア 平成30年度・令和元年度受入図書調査

平成30年度、令和元年度における一般受入図書を、分類別に比較したグラフです（図表3-10）。

図表 3-10 一般受入図書の分類比較



中央図書館は、郷土行政資料の最終保存館として、その受入比率は9.9%と3館中で最も高く、また複本の購入担当館として、特に予約の多い9類（文学、特に小説）の割合も高くなる傾向にあります。

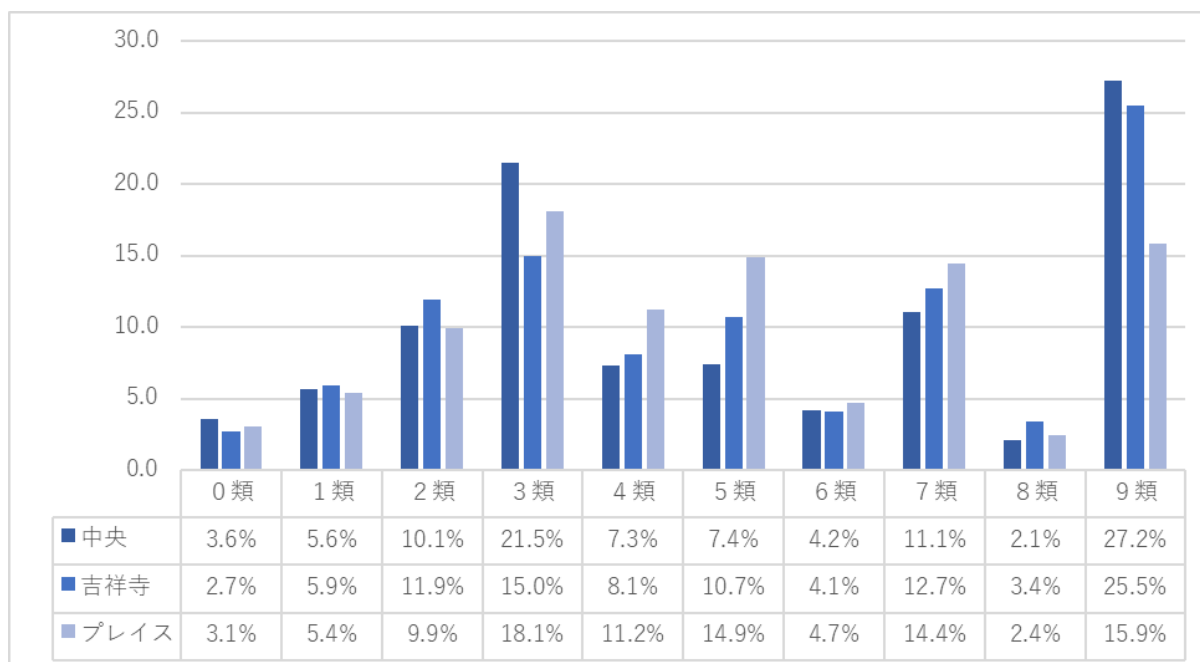
吉祥寺図書館では、郷土行政資料が4.1%、2類（歴史）が12.6%と比較的高く、9類（文学）が34.0%と3館の中では最も高い割合でした。

武蔵野プレイスでは、0類（総記）が6.5%、3類（社会科学）が16.2%、5類（技術）が9.9%、7類（芸術）が9.6%と3館の中で最も高い一方、9類（文学）は26.0%と3館中、最も低い割合でした。

イ 単館所蔵タイトル数の分類別比率調査

各館において、その館でしか所蔵していない図書の総数を母数とし、各分類が占める割合をグラフにしました（図表 3-11）。

図表 3-11 単館所蔵タイトル比較（一般図書）



中央図書館では3類（社会科学）が21.5%と、他館と比べて高くなっています。武蔵野プレイスでは3類（社会科学）が18.1%、4類（自然科学）が11.2%、5類（技術）が14.9%と、他館と比べて高くなっています。また9類（文学）は、吉祥寺図書館では25.5%、武蔵野プレイスでは15.9%と、地域館ごとの所蔵資料の特徴が見られました。

ウ 結果

受入図書の実績、また単館で所蔵する図書の傾向から、各館において以下のような特徴がみられました。

	各館の特徴
中 央	<ul style="list-style-type: none">● 郷土行政資料収集の中心館として、都・近隣自治体の資料も含め広く郷土行政資料を受入。● 全分野にわたり、幅広く資料を受入。
吉祥寺	<ul style="list-style-type: none">● 郷土行政資料（特に吉祥寺というまちに関連するもの）を比較的多く受入。● 9類（文学）や2類（歴史、人物、旅行本）などを多く受入。単館所蔵タイトルについても、同分類の比率が比較的高い。
プレイス	<ul style="list-style-type: none">● 0類（総記）、3類（社会科学）、5類（技術）、7類（芸術）の受入が比較的多く、一方9類（文学）は比較的少ない。● 単館所蔵タイトルについても同様の特徴がみられた。

4. 蔵書方針

今回行った蔵書評価により示された本市図書館の蔵書の特徴あるいは課題を受けて、武蔵野市立図書館としての収集、除籍のあり方や館別の収集の考え方などについて、本市における今後の蔵書構成のあり方を以下のとおり示します。

(1) 武蔵野市立図書館

- 武蔵野市立図書館資料収集方針に基づき蔵書の充実を進める

3館を合わせた市立図書館総体としての蔵書は、広く市民の教養、調査研究、レクリエーションなどに役立てることを目的に、市民の要望に十分応えられる、各分野にわたり必要な資料を広範囲に所蔵できている状態にあります。収集にあたっては、現方針を維持しこれに基づき進めていきます。

- 計画的な除籍を着実に実施する

除籍は「第2の選書」であり、資料へのアクセスを不可能にしてしまう重要な作業です。これまでも劣化や汚破損などの事由により除籍をしてきましたが、今後は年鑑白書類の保存年限や、改訂等により情報の鮮度が落ちた本、利用実績が少ない本の除籍時期など、より具体的な基準をもって進めなくてはなりません。なお、除籍検討資料が、多摩地域の公立図書館における最後の1冊である場合や、国会図書館の所蔵から漏れている場合は、可能な限り保存することも重要です。

以上のようなことに配慮しつつ、所蔵能力に応じた計画的な除籍を実施し、蔵書の最適な状態を維持していきます。

- 複本数の抑制、最適化を行う

市民の教養やレクリエーションに資することを目的に、広く市民の利用に供するため、必要な複本数を備える必要があります。しかし、本市の複本冊数の現状と最大複本冊数の設定は、他市区と比較しても過大な状況にあります。また、所蔵能力を踏まえると、除籍とともに複本の抑制も必要となります。蔵書の多様性と持続性の維持を図るため、常に最適な複本数へ見直していきます。

- 3館それぞれの個性に適した蔵書を構成していく

本市は、各地域に根差し、施設の特徴や利用者層も異なる、個性的な図書館が3館あります。それぞれの地域や施設、利用者を背景に、各館の個性に適した蔵書を構成していきます。

(2) 中央図書館

中央図書館は、三鷹駅から徒歩15分、市民文化会館、市役所、武蔵野総合体育館などが近くにある、落ち着いた住宅エリアに立地しています。

武蔵野市の中央圏に位置する地域館として閲覧や貸出をする役割を担うとともに、建物の地下1階に市内全体の約7割もの図書を幅広く保管している市内で唯一の書庫を持つ図書館であることから、資料保存の中核として、他地域館を蔵書の面でバックアップする役割を果たしています。

また、通常の活字による読書が困難な方向けの資料や、視聴覚資料、YA（青少年向け）の漫画などを集中して収集している点、武蔵野市や東京都等の郷土行政資料や調査・研究のための専門書・参考書、その他様々な分野の図書を偏りなく収集している点が特徴としてあげられます。

今後も、武蔵野市民が知りたいこと・考えたいこと・解決したいことを「知」の側面から支えるために、すべての分野に渡り偏りの無い資料の収集に努め、武蔵野市の中央図書館としての役割に応えていきます。

具体例としては、以下を留意し収集に努めます。

- 郷土行政資料の収集

郷土行政資料受入の中心館として、都・近隣自治体の資料も含め、広く収集していきます。

- 幅広く、偏りの無い収集

資料保存の中核、他地域館の補完館として、テーマに偏りなく幅広い収集をしていきます。

- 大活字本、デイジー・テープ図書¹³、LLブック¹⁴、点字雑誌の収集

障害者サービスの中心館として、通常の活字による読書が困難な方向けの資料を、集中して収集していきます。

- 視聴覚資料の収集

比較的高額な資料であり、保全のため外部への研磨委託なども必要になるCD、DVD等の視聴覚資料を集中して収集していきます。

- 参考図書の収集

利用者の調査・研究のため、また、市内レファレンスへの対応や、他地域館レファレンスの補完の役割を担うため、全分野にわたり辞典、事典、図鑑、年鑑等の参考図書を幅広く収集していきます。なお、オンラインデータベースも、中央図書館を中心に提供していきます。

¹³ 視覚障害者用の国際標準規格で作られたデジタル資料・録音テープのこと。

¹⁴ 学習障害、知的障害の方にも読みやすく書かれた「やさしく読める本」のこと。

(3) 吉祥寺図書館

吉祥寺図書館は、市内3駅中で最大の乗降客数をもつ吉祥寺駅から徒歩3分に立地し、延床面積が中央図書館の約20%程度と、3館の中では最も小さな図書館となります。周辺地域は都内有数の商業集積地でもあり、小売業やサービス業を中心に、多くの事業所が密集しています。そして、文化・芸術性に富んだ沢山のイベントが開催されてきた地域でもあり、期間中には図書館も協働して関連図書展示を行うなどしてきました。また、吉祥寺駅や周辺商業集積地に集まる人々が、「買い物のついで」「通勤や通学のついで」に利用する姿が多くみられます。

平成30年のリニューアル時に掲げられた、多様な来街者や地域住民が「気軽に楽しく知的な出会いを」得られる場となれるよう収集に努めます。

具体例としては、以下を留意し収集に努めます。

- 郷土行政資料の収集

繁華街に近く、来訪者の多いまちの情報発信基地として、まち情報関連資料を積極的に収集していきます。

- 2類（歴史・人物・旅行等）・9類（文学）の収集

駅や繁華街に近い立地にあり、通勤や買い物のついでに「借りて帰る」という利用も多く見られます¹⁵。一般的な読み物系の図書の需要が多い事を反映した、資料の収集をしていきます。

- 3類（社会科学＞ビジネス）・6類（産業＞商業）の収集

商業に関する図書は、文学等に比べて、一般流通している冊数が相対的に少ない分野ではありますが¹⁶、大きな商店街や個人商店が多数ある商業が盛んなまちという特色を踏まえて、積極的に収集をしていきます。

- 7類（芸術）の収集

「アニメワンダーランド」「吉祥寺音楽祭」などの開催地であり、アニメスタジオや劇団などが多く活動する文化創造のまちという特色に沿った資料を積極的に収集していきます。

- YA（青少年向け）資料の収集

平成30年のリニューアル時に新設されたYAコーナーを活かし、青少年世代の知的好奇心や悩み等に寄り添った資料を収集していきます。

¹⁵ 来館者調査・立ち寄り行動について、以下を参照とした。

（野上宏樹、井本佐保里「武蔵野市立図書館 来館者調査のご報告」平成31年3月4日）
（野上宏樹、井本佐保里、大月敏雄「図書館利用者の館周辺における立ち寄り行動に関する研究 武蔵野市3館での比較」2018年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ 2019年3月 pp.313-314）

¹⁶ 『2018年版 出版年鑑』出版ニュース社 p.268-271

(4) プレイス図書館

武蔵野プレイスは、武蔵境駅前に立地し 22 時まで開館しており、帰りがけに立ち寄るビジネスパーソンの姿も多く見られます。また、さまざまなライフステージにおいて、生活や学びに役立つ情報が得られるように、文学に加えて「知識や考えるヒントを得る本」や、日常生活の中で「使う本」等を揃えたフロアがあり、乳幼児がいる親世代から高齢者まで幅広く利用されています。さらに、施設内には「若者の居場所」として多くの青少年に親しまれているスタジオラウンジがあり、青少年の知的好奇心や、進路・悩みなどに寄り添った事業を展開しています。¹⁷

図書や活動を通じて人とひとが出会い、それぞれが持つ情報を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、まちの活性化が図られることを目的とした、活動支援型施設の基幹機能としての役割を担っていきます。

具体例としては、以下を留意し収集に努めます。

- 0 類（総記） 3 類（社会科学）の収集

多くの利用が見られるビジネスパーソンのニーズを捉え、情報処理関連図書やビジネス書を積極的に収集していきます。

- 5 類（技術）の収集

児童書エリアの横に生活や趣味の実用書コーナーがあり、親子でゆっくりと楽しめる空間となっています。掃除・料理の本等の日々の生活に沿った資料が手に取られやすく、貸出状況と書架とのバランスを考慮し、積極的かつ適切に収集していきます。

- 7 類（芸術）・YA の収集

地下 2 階にアート&ティーンズライブラリーがあり、芸術関連資料や YA（青少年向け）資料を積極的に収集していきます。

- 講座・イベントに合わせた収集

生涯学習機能が開催する食文化講座や、青少年活動支援機能が開催するキャリア形成支援事業などに合わせた図書展示も行っています。講座やイベントに関連する図書の収集を積極的にしていきます。

- 雑誌の収集

図書になりにくい狭い分野や、未確立である分野の、より新しい情報提供に適したメディアである雑誌を積極的に収集していきます。

¹⁷ 来館者調査・立ち寄り行動について、以下を参照とした。

（野上宏樹、井本佐保里「武蔵野市立図書館 来館者調査のご報告」平成 31 年 3 月 4 日）

（野上宏樹、井本佐保里、大月敏雄「図書館利用者の館周辺における立ち寄り行動に関する研究 武蔵野市 3 館での比較」2018 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ 2019 年 3 月 pp. 313-314）

武蔵野市立図書館蔵書方針

発行年月	令和3（2021）年3月
発行	武蔵野市教育委員会 武蔵野市緑町2丁目2番28号
編集	武蔵野市教育委員会教育部図書館 武蔵野市吉祥寺北町4丁目8番3号 0422-51-5145
協力	亜細亜大学 安形輝 教授